

ひと あい えどがわ

No.40

発行日 / 2019.3.1
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

水と緑のまち江戸川区で見つけた春景色



篠田堀親水緑道（大塚恭子）



一之江境川親水公園（川崎富美雄）



葛西臨海公園（佐々木統一）

行船公園
平成庭園
（大城エリア）

新川千本桜（榎本清一）

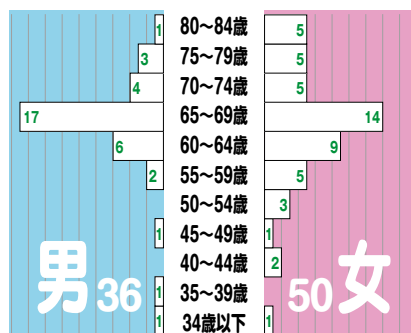
平成30年10月、希望を胸に86名の15期生が仲間に加わりました。

昨年、江戸川区の各地から、年齢も経験も異なる多様な86名の学生が入学しました。

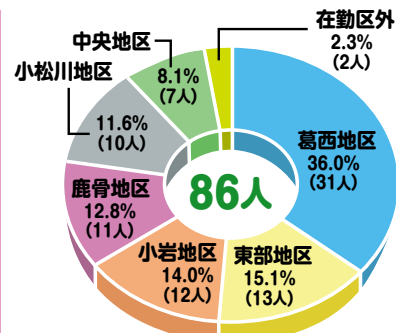
それぞれの想いを抱き入学した15期生は、人生大学での学びと多くの仲間との絆を活かし、これから地域の担い手として、成長してくれることが期待されます。

今、15期生は目標に向かって、元気に学び、仲間との絆を深めています。

15期生の年齢構成（男女別）



15期生の居住地区



人生 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために
大学 江戸川区が開設した大学です。（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

“地域を学び、役立ちたい”仲間が集いました！

それぞれの想い、経験などは違いながらも、「何か地域に役立つことがしたい、その前に勉強してみよう」という希望にあふれた幅広い年齢層の86名が入学しました。昨年10月に会った仲間の入学の動機や横顔を紹介します。

江戸川まちづくり学科

入学の動機や抱負についてアンケートを取りました。27名中6名は、現在も仕事をしており、11名は入学の1年以内まで仕事をしていました。江戸川区全域からの参加でほとんどの方がバスや電車を使って通学しています。中には80分かけて篠崎キャンパスまで通う人もいます。

「まちづくり・江戸川区を知りたい」「新しいことにチャレンジしたい」「友達を作りたい」を入学の動機として挙げています。入学にあたっては、仕事をしている方がいるためか、スケジュールを考慮したという方が多く、まちづくり学科を選んだ理由で多かったのは、「江戸川区をもっと知りたい」でした。多くの方が、これから頑張るって江戸川区のことを学び、江戸川区に役立つことをしたいと語ってくれました。

これから2年間みんなで助け合いながら楽しく学び、一人ひとりが自分の目標を達成できるようなクラスにしていきたいと思います。

(新川里代・谷村健次郎)



国際コミュニケーション学科

私は、いつ頃からか「何かしたい」と思うとき区報などを読んで決めるのですが、今回の人生大学は街の掲示板で知りました。応募期限は過ぎていましたが、幸い延長と聞いて、願書を提出したら入学できました。

左の腎臓を全摘出して、やっていた仕事、ダンス、スキー、山登り等を全て止めて気持ちも落ち込んでいましたが、7年経った今、少しずつ薬と縁を切り、一緒に勉強する良い友達と出会って、今後の2年間は頑張ることが出来ます。入学できたことにバンザイ！

(磯辺千代子 70代)

15期は、幅広い年齢層の24名が集まりました。男性10名は仕事をリタイアして「改めて勉強したい」「生きがいを求めたい」という人が多く、女性14名は、それぞれの生活や仕事などから、「何か地域や自分に役立つことを見つけたい」と積極的な人が多いようです。これから2年間、出会った仲間と共に学び、卒業後は地域にも貢献できたらと、クラスの全員が考えています。



(小越美子・松村知勝)

子育てささえあい学科

今年から「子育てささえあい学科」に名称が一新されて15期がスタート！新入生8名で濃い時間を過ごしております。皆さんに意気込みをインタビューしました。まず入学したきっかけで一番多かったのは「子どもに興味があった」こと。そこには様々な理由があり、「時代が変わり、現在の子どもの状況や子育てをもう一度学び直したかった」「子どもができ、地域の関係性を学びたかった」など、好奇心旺盛な仲間が集まりました。

次に実際に学び始めて「授業が新鮮な気持ちで楽しい」「講師の方々の熱意が強く伝わってくる」「何となく過ぎていた子どもの成長を学び、積み重ねの時間が大切だと気付けた」などと、早速充実した学習をしています。

最後にこれからの意気込みについて「人生大学の良さは人とのつながりができること。クラスの仲間と楽しく学んでいきたい」「外に出ない自分から抜け出すチャンス」と、前向きな意見が多く出ました。これからの大学生活がより楽しみです。

(大塚恭子・赤松卓人)



介護・健康学科

いつもは何気なく“見ている”回覧板でしたが、入学後に届いた回覧板は“興味を持って読み”ました。「えどがわ入門」の授業を受ける中、江戸川区に、より興味を持ってきたからです。

そこには、住民と行政が協力し合って地域をより良くしていこうとする生き生きとした様子が掲載されていました。

防犯や、清掃活動、緑と花で街をいっぱいにする活動は、住民同士が協力し合い、支え合って初めて可能になることだと思います。

ここで気づいたことですが、このような活動は「地域で困っている高齢者の掘り起こしにもつながるのではないか」と。人生大学で学ぶ前は、“見えていた”はずなのに、“きちんと見ようとしなかった”と感じています。

人生大学でさらに多くを学び、地域活動に積極的に参加することによって、悩みを抱えている高齢者のお役に立てるよう活動していきたいと思っています。

(田所陽子)



少し背伸びをして「楽しい社会貢献」を目指します！

1年次の座学で得た知識を基に、2年次は社会に出て「活動体験」を始めました。

世のためひとのため、そして自分のために、先生や先輩方のアドバイスを心得て一歩踏み出しました。1年次の感想と2年次の抱負をお届けします。

江戸川まちづくり学科

私の人生大学への入学動機は、退職後の時間つぶしでした。しかし、期待以上の内容に次第と授業が待ち遠しくなっていました。

授業後の食事会・お花見・大学祭の準備等を通じて仲間との親交も深まりました。昨秋、一人も欠けることなく2年目を迎えることができたことを、誇らしく思っています。

ボランティア活動に全く興味の無かった私ですが、意識の高い仲間刺激され、町会への貢献から徐々にボランティア活動の範囲を広げています。

(若松信行)

明確な志を持たないまま入学した私は、周りの立派な志をお持ちの皆さんのご様子に、何とも座り心地の悪い日々を過ごしていました。ですが、授業へ出席する度にその不安が薄れて、今では完全になりました。

素敵なクラスメートに恵まれ、時には背中を押され、無事に進級することができました。

『皆さんありがとう!そして2年次も宜しく頼みます!』ということで、社会貢献に繋がる課題を具体化できるように、ただ今努力の真最中です。

(鈴木歌枝)



国際コミュニティ学科

会社を卒業した時、人は足下を見つめなおす。現役時代になしえなかった趣味や研究に入る人は多い。しかし、一方で地域に目を向けると意外なことに気づくこともまた多い。そこで役立っているのが人生大学ではないだろうか。地域での自分の居場所を作ってくれ、新たな友人の輪もできます。

国際コミュニティ学科に入り、江戸川区に住む外国人の存在の大きさを知ることになり、関わるようになってきます。自分が海外生活で経験したことの真逆版で、受け入れ側として、住んでいる外国人の気持ちが分かるし、新たな言葉の習得に苦労していることも手に取るように分かります。生活習慣や考え方の違いに戸惑っている様は、以前に自分が海外生活を送っていたときの映像と重なります。

江戸川に住んで良かった、江戸川に住んでくれてよかったという交流の懸け橋に少しでも役に立つことを思い、学んでいます。

(石井教文)



子ども・子育て応援学科

40数年間務めていた会社を退職。これからの生き甲斐につながる活動を模索していた矢先、人生大学を知り、妻に背中を押され入学しました。

今まで仕事一筋で、あまり子どもとのかかわりがなかったことを反省。少しでも子どもたちとかかわり、接することで新たなパワーをもらいたいと思い、本学科を選びました。

座学では、子育ての「今昔・変容・諸問題・支援」、子どもの「発達段階・二面性・遊び」等々の講義を受けました。フィールドワークでは、「共育プラザ」・「NPO法人東京ベテル」・「すくすくスクール」を訪問。施設の見学とヨチヨチ歩き子どもたちや小学生とふれあいました。職員から活動の具体的な内容を聞く中で、是非、2年次のボランティア活動は、「すくすくスクール」で実施したいとの思いが膨らみ、「すくすくスクール」での第一歩を踏み出しました。この活動を通して、自己改革とボランティア活動の質と量を高めていきたいと考えています。

(今関茂喜)



介護・健康学科

今一番の関心事はというと、“地域貢献、ボランティア”。現状を見ると、「これはいったい何のための誰のためのボランティアなのか・どれ程の意味のある行動なのか」というような活動がある。自己満足だけの趣味のようなボランティアのように思われてしまう。

しかし、我が身に置き換えてみると、我々の様な熟年組はそれでよいのかも知れない。もう肩肘張らずに身の丈に合った、自分の健康のために、しかもそれが、他人のためにもなればと考えながらの自主的活動を何か探してみよう。(佐藤廣幸)

何歳になっても想像力と好奇心を持ち続けることは若さを保つ秘訣です。認知症にならないように、毎日規則正しい生活をしています。若者の足手まといにならない生き方をしたいと思い、終末期の医療についての意思表明書を書いて主治医に相談しています。こうして身辺整理をしておきますと、心がほっとして、いろいろなことに専念しております。

私は老人ホームでは、介護依存のボランティアではなく、自立支援のボランティアの方が大切だと思うので、そうしようと思います。(山口恵子)



活躍する卒業生

人生大学で学んだ事を活かして、『社会貢献』を実践し、楽しく・充実した日々を過ごされている『卒業生』にお話しを伺いました。

国際13期生の大野正夫さんに「あなたにとって人生大学とは？」の質問に答えていただきました。

日本を訪れる外国人に「日本人に良い印象を持って帰国してもらえよう活動をしたい」と思い、行動のヒントを得るために入学しました。一番の学びは、「多文化共生」という概念です。相手（外国人）との違いを認め理解することと、江戸川区に住む外国人が楽しく暮らせる社会づくりの一員になることが求められていることを自覚しました。

卒業後の今は、学びを実践に活かそうと夢は膨らむばかりですが、当面はできることから始めようと思っています。

その一つが区在住・在勤の外国人のための日本語学習支援です。2年次の社会活動体験で参加したボランティア団体「国際江戸端会議」の「日本語サロンedobata」での活動を継続しながら、国際13期の仲間と支援活動が不足している篠崎地区を拠点とする「たのしい日本語サロン」を立ち上げ、活動を開始しました。

大学で得た最高の財産は、国際の仲間はもちろん、同期生、卒業生を含めた「人」です。区のボランティア活動の現場を訪れると、必ずと言ってよいほど人生大学の在校生、卒業生が中心的な役割を担っています。

今後の目標は、現在の活動を出発点として、区が多文化共生社会推進に役立つ活動をしていくこと。課題は多くありますが、一人ではできないことも、同期の仲間や卒業生の知恵と行動力を借りることで一つずつ実現していけると確信しています。

（取材：田村誠二郎）



昨年、まち13期の卒業研究発表で「子どもの成長支援事業」の発表をされた柴田正美さんに、NPO法人らいおんはーと（以下「らいおん」）でお話しを伺いました。

「らいおん」は、及川信之さん（現理事長）が元PTAの有志と、現場で体験した子ども達の厳しい実態を解決するために立ち上げられた団体です。柴田さんは、人生大学2年次の社会活動体験の際に知った及川さんの子ども達への思いやり、献身的な活動に共感し、「らいおん」に参加され、現在は監事をされています。

「らいおん」では「すべての子ども達に豊かで幸せな人生を」を基本理念に、ぬくもり子ども食堂、ぬくもりスペース「Nukunuku」を通して、子ども達への食事の提供、学習指導を行っています。現在は隔日だが、日曜を含む毎日の開催を目指しています。

柴田さんは過去の経験を活かして、この組織風土を風通しの良い体質に変えられました。財務基盤も、会員体制の拡充に加え、組織の活動に理解あるCSR会員（社会貢献企業）、ロータリー等多くの賛同を得て、基盤が拡充され今後の活動に自信をお持ちでした。

柴田さんの言葉です。「人生大学では、一生勉強していくことが一番充実した人生を送れることを学びました。そして倫理に会い、何を求めれば充実した人生が送れるかを学んでいます。これからは「らいおん」を実践の場として生きて行きたいと思います。」

（取材：多久島重）



同窓会の窓



大学情報紙「ひと あい えどがわ」40号にちなんで「40」が使われている慣用句を並べてみました。「四十暗がり」「三十振り袖四十島田」などは「人生の曲がり角」的な内容ですが、「四十にして惑わず」がみごとに打ち消してくれます。これから50号・100号と続いていくことを楽しみにしています。

情報紙と言えば、私達同窓会も「同窓会だより」を発行しています。主に同窓会会員向けに配布していますので、会員以外の方の目に触れる機会は少ないかと思いますが、

同窓会ホームページ（URL：下記で参照。あるいは江戸川総合人生大学同窓会で検索して下さい）に全号掲載しています。同窓会の様々な活動を、豊富な写真を使って紹介していますので、是非一度ご覧頂きますようお願いいたします。

同窓会会長 前田 直義（国際9期）

同窓会ホームページ <https://www.jinseidaigaku-dousoukai.net/>
メールアドレス info@jinseidaigaku-dousoukai.net

編集後記

本号では、新たに人生大学に加わった15期生の入学動機や横顔、2年目を迎えた14期生の社会貢献への決意、そして卒業生の現在の活躍を中心に掲載しました。

読者のみなさんに、「人生大学の素晴らしさをお伝えしたい!」という編集方針で取り組みました。編集委員の熱い心が少しでもお伝えできれば幸いです。

今後ともご愛読下さいますようお願い申し上げます。

編集長 田村誠二郎（まち14期）

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【14期生】 多久島重、田村誠二郎（まち） 榎本清一、山崎早苗（国際）
栗原國子、西山弘（子ども） 川崎富美雄、松瀬元春（介護）

【15期生】 新川里代、谷村健次郎（まち） 小越美子、松村知勝（国際）
赤松卓人、大塚恭子（子育て） 稲野恵美子、橋住徳幸（介護）